

授業科目	外国語コミュニケーションⅠ				
担当教員	船井 純平				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位

学科 DP との関連	DPⅠ		DPⅡ		DPⅢ
	1	2	1	2	1
	◎	◎			

**授業の目的**  
 読む、書く、聞く、話すのバランスを考慮したうえで、英語を読む力、聞き取り理解する基礎能力を身に付ける。また、ニュース・新聞記事、インターネット、看板、マンガなど様々なジャンルの英語で書かれた情報を正しく理解すると同時に、海外のドラマ、映画などで話されている英語を聞き取る能力を身につけることを目的とする。

- 授業の到達目標**
- (1) 英文を正しく読み、正確に聞き取ることができる。
  - (2) 基礎的な文法事項と英語表現を理解し、活用することができる。
  - (3) 辞書を適切に使うことができる。
  - (4) 異文化を理解し、自分の考えを平易な英語で表現できる。

**自修について**(予習・復習内容等)  
 毎回講義後に配布資料、授業内容の復習(1時間)を行うことが求められる。

回数	授業計画・内容
1	前期授業ガイダンス
2	新聞・ニュース記事①(文化) / 漫画①
3	英語のリズムについて / リスニング(situation comedy①)
4	新聞・ニュース記事②(海外事情、日本文化)
5	口語表現①～④(日課) / リスニング(situation comedy②)
6	新聞・ニュース記事③(社会問題、雑学)
7	口語表現⑤(健康) / リスニング(situation comedy③)
8	中間まとめ
9	リスニング(映画①/音変化)
10	リスニング(映画②/表現)
11	新聞・ニュース記事④(時事問題) / 漫画②
12	コロケーション / リスニング(situation comedy④)
13	新聞・ニュース記事⑤(芸能、音楽) / 英語の看板
14	口語表現⑥(ビジネス) / リスニング(situation comedy⑤)
15	まとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 成績評価の配分は、中間試験 50%、期末試験 50%、計 100%

**教科書**  
 使用しない

**参考書・参考資料**  
 なし

**その他(学生へのアドバイス)**  
 毎回授業の際には英和辞典を持参すること。

授業科目	外国語コミュニケーションⅡ				
担当教員	船井 純平				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位

学科 DP との関連	DPⅠ		DPⅡ		DPⅢ
	1	2	1	2	1
	◎	◎			

**授業の目的**  
 「外国語コミュニケーションⅠ」に引き続き、読む、書く、聞く、話すのバランスを考慮したうえで、読む力、聞き取り理解する力を身に付ける。また、ニュース・新聞記事、インターネット、看板、マンガなど様々なジャンルの英語で書かれた情報を正しく理解すると同時に、海外のドラマ、映画などで話されている英語を聞き取る能力を、より実践的な学びを通して修得することを目的とする。

- 授業の到達目標**
- (1) 英文を正しく読み、正確に聞き取ることができる。
  - (2) 発展的な文法事項と英語表現を理解し、活用することができる。
  - (3) 異文化への理解を深め、自分の考えを豊かな語彙を用いた英語で表現できる。

**自修について**(予習・復習内容等)  
 毎回講義後に配布資料、授業内容の復習(1時間)を行うことが求められる。

回数	授業計画・内容
1	後期授業ガイダンス
2	新聞・ニュース記事(自然、芸術) / 記事タイトルの英語
3	口語表現⑦～⑧(交通機関) / リスニング(situation comedy⑥)
4	新聞・ニュース記事(食品、医療)
5	会話表現 / リスニング(situation comedy⑦)
6	新聞・ニュース記事(海外事情)
7	接頭辞・接尾辞 / リスニング(situation comedy⑧)
8	中間まとめ
9	リスニング(映画③/音変化)
10	リスニング(映画④/表現)
11	新聞・ニュース記事(有名人インタビュー)
12	口語表現⑨～⑩(情報・通信) / リスニング(situation comedy⑨)
13	新聞・ニュース記事(環境問題) / 漫画③
14	英語の同意語 / リスニング(situation comedy⑩)
15	まとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 成績評価の配分は、中間試験 50%、期末試験 50%、計 100%

**教科書**  
 使用しない

**参考書・参考資料**  
 なし

**その他(学生へのアドバイス)**  
 毎回授業の際には英和辞典を持参すること。

授業科目	健康とスポーツ(講義)				
担当教員	真木 弘				
開講時期	後期	講義形態	講義	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
	◎	◎			

<b>授業の目的</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>健康の意義、大切さなどを学び、将来にも役立つ考え方、また、健康・体力作りのための運動習慣を身につける。</li> <li>自分の体の仕組み、特に筋肉、神経、骨格などについて理解することができる。</li> <li>健康な生活営むにはどうするか。自分なりに考えることができる。</li> <li>健康の維持管理は、自分ひとりの力ではできない。環境等により健康被害があることを理解することができる。</li> </ul>

<b>授業の到達目標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>理想的な体型・体格とは何かを意識して、肥満と運動と栄養の関係を学び、健康の意義について自分なりに理解できる。</li> <li>健康生活を送るにはどうすればよいか具体的に獲得できる。</li> </ul>

<b>自修について(予習・復習内容等)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回の授業内容を教科書等で予習しておく。(1時間)</li> <li>授業終了後、学んだことを復習しておく。(1時間)</li> <li>スポーツ、健康番組等を鑑賞し、レポート提出する。(2時間)</li> </ul>

回数	授業計画・内容
1	資料・VTRなどを用い、スポーツの魅力、楽しさ、また、人間の持つ運動能力のすばらしさを考え、理解する。(1)
2	資料・VTRなどを用い、スポーツの魅力、楽しさ、また、人間の持つ運動能力のすばらしさを考え、理解する。(2)
3	資料・VTRなどを用い、筋肉、神経、骨格それぞれどのような関係にあるか学ぶ。
4	資料・VTRなどを用い、妊娠・出産について学ぶ。
5	資料・VTRなどを用い、生命について考える。
6	資料・VTRなどを用い、循環器系について考える。
7	資料・VTRなどを用い、健康生活を考える。
8	まとめ

<b>成績評価の方法・基準</b>
毎回のレポート(40%)、試験(60%)、計 100%

<b>教科書</b>
「健康とスポーツ概論—運動と健康の理論—」(圭文社)

<b>参考書・参考資料</b>
なし

<b>その他(学生へのアドバイス)</b>
なし

授業科目	健康とスポーツ(実技)						
担当教員	真木 弘						
開講時期	前期	講義形態	実技	単位数	1単位		
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III		
	1	2	1	2	1	2	3
	◎	◎					

<b>授業の目的</b>
<p>各種スポーツ実践を通して、その種目のルールや特徴、楽しさを理解する。また、体力及び技能の習得・向上を図り、みんなで活動することの楽しさ、チームワークの必要性を知る。それらのプロセスを通して、スポーツに対する積極的な姿勢、コミュニケーション能力、勝利するための創意工夫などを体得し、生涯にわたってスポーツに親しんでいく態度を育成する。</p>

<b>授業の到達目標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>実施するスポーツのルールや特徴を説明することができる。</li> <li>スポーツを楽しみながら、自己の体力及び技能の習得・向上を図ることができる。</li> <li>勝利するための方法をチーム内でコミュニケーションをとったり、個人レベルで創意工夫をすることができる。</li> <li>ケガを予防する方法や環境づくりを理解し、安全に留意して活動ができる。</li> </ol>

<b>自修について(予習・復習内容等)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回自分の良かった点、修正すべき点をレポートする。</li> <li>次回の目標を立て実践できるようにイメージトレーニングをする。</li> </ul> <p>計1時間</p>

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション
2	卓球のレベル分けゲーム(3グループ)
3	グループ別リーグ戦(1) シングルス、ダブルスを行う
4	グループ別リーグ戦(2) 勝率上位・下位各2名は入れ替え
5	グループ別リーグ戦(3) 勝率上位・下位各2名は入れ替え
6	グループ別リーグ戦(4) 勝率上位・下位各2名は入れ替え
7	グループ別リーグ戦(5) 勝率上位・下位各2名は入れ替え
8	バドミントンのレベル分けゲーム(3グループ)
9	グループ別リーグ戦(1) シングルス、ダブルスを行う
10	グループ別リーグ戦(2) 勝率上位・下位各2名は入れ替え
11	グループ別リーグ戦(3) 勝率上位・下位各2名は入れ替え
12	グループ別リーグ戦(4) 勝率上位・下位各2名は入れ替え
13	グループ別リーグ戦(5) 勝率上位・下位各2名は入れ替え
14	グループ別リーグ戦(6) 勝率上位・下位各2名は入れ替え
15	グループ別リーグ戦(7) 勝率上位・下位各2名は入れ替え
16	なし

<b>成績評価の方法・基準</b>
レポート(35%)、授業時のワークシート(60%)、運動技能(5%)、計 100%

<b>教科書</b>
使用しない。

<b>参考書・参考資料</b>
卓球・バドミントン指導書等

<b>その他(学生へのアドバイス)</b>
インターネット等で上手な人の動きを研究し、それができるように考える。とにかく自分で考え、人の意見を聞く。

授業科目	女性の自立と人権				
担当教員	岩田 愛				
開講時期	後期	講義形態	講義	単位数	2単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
	◎	◎			

授業の目的
本講義は、私たちの生活をジェンダー視点から見つめ直すとともに、社会の仕組みを理解することによって、より豊かな社会について考える力を養うことを目的とする。特に、現代社会の労働等における男女間の機会不平等の現状、発展途上国におけるジェンダーの状況と開発の役割について学ぶ。

授業の到達目標
1 現代のジェンダー問題を自分自身に関わる問題としてどう対処していくべきか考え、自分の意見を持ち、それを発言したり、文章で表現できる。
2 伝統社会におけるジェンダー問題と開発の役割に関する知識、現状を理解し、それを説明することができる。
3 学習した内容の要点を自分で工夫して、整理し、文章にまとめることができる。

自修について(予習・復習内容等)
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業を受ける前に、あらかじめ配布した資料、テキスト等は、読んで予習しておくこと(1時間)。</li> <li>授業中に、テーマごとの復習テストを行うので、返却されたテストを家庭で復習(1時間)してから、次の授業に臨むこと。</li> <li>授業に関連する小レポート課題に取り組む(課題のために配布する資料を必ず読み、参考図書を2冊は読むこと)。(2時間)</li> </ul>

回数	授業計画・内容
1	ガイダンス
2	ジェンダーとは
3	セクシュアル・マイノリティとは
4	セクシュアル・マイノリティの人々の抱える問題とは
5	家族とは何か
6	伝統社会におけるジェンダーの特徴
7	現代日本の家族問題の諸相
8	近年の結婚観の変化
9	工業社会と「性別役割分業」の誕生
10	女性の働き方の特徴:M字型就労
11	ワークライフバランスとは
12	社会開発における国際機関とNGOの役割
13	開発途上国における女性グループとマイクロクレジット
14	フィールドから:ネパールの女性グループの事例から
15	全体のまとめ
16	期末試験

成績評価の方法・基準
小レポート20%、授業中のリアクションペーパー20%、期末試験60%、計100%

教科書
木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江 2013『よくわかるジェンダー・スタディーズ』ミネルヴァ書房

参考書・参考資料
参考文献は、授業中に適宜指示します。

その他(学生へのアドバイス)
初回の授業で、授業の進め方について説明します。